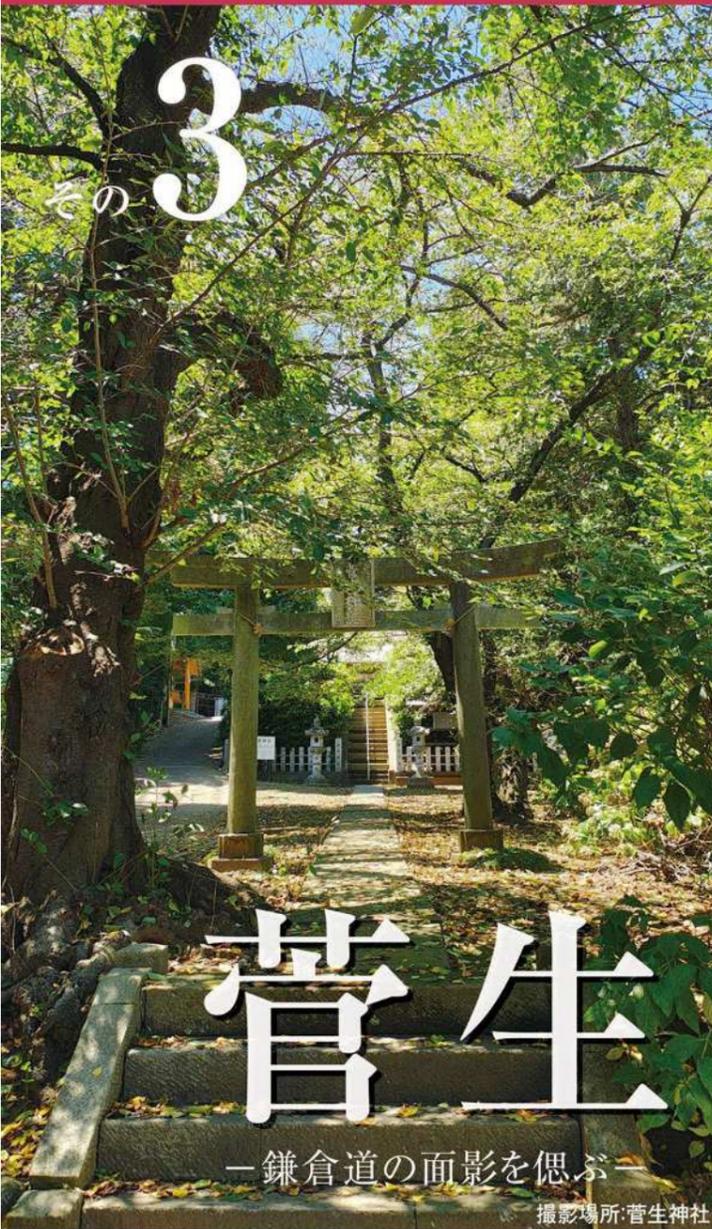


菅生地区について



その 3

菅生

鎌倉道の面影を偲ぶ

撮影場所:菅生神社

菅生は平瀬川の上流域にあり、多摩丘陵の高地には多くの谷戸が発達していた。江戸時代には下菅生村であった。その後、明治8年(1875)に天真寺新田と合併して菅生村となり、明治22年(1889)に長尾村・平村・上作延村と合併して向丘村に発展した。昭和13年(1938)には川崎市に併合され、さらに昭和47年(1972)に高津区に編入、同57年には人口の増加に伴い宮前区が分区された。菅生の歴史は古く、約3万年前の旧石器時代後期の鷲ヶ峰遺跡をはじめ、中央卸売市場北部市場からは約1万年前の縄文時代草創期の菅生水沢遺跡が発見されている。さらに縄文時代早期から平安時代にかけての菅生遺跡・潮見台遺跡も発見されているが、潮見台遺跡の住居跡からは、八ヶ岳山麓で作られたと言う珍しい埋甕(うめがめ)が出土している。



島坂

ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

① 鎌倉街道中道支線(荏田～登戸線)

鎌倉街道中道支線は、荏田から石川を経て水沢に入り、王禅寺道の愛宕社から矢道ノ坂(矢取坂)を通り、権現坂から台地に上り枳形山・登戸方面に連絡していた。長沢からは畑の一ヶ所から57基、共同墓地から65基の板碑が発見されている。

② 長安寺



浄土真宗法林山長安寺。本尊は阿弥陀如来立像。寺を中興開基した杉田長安は、横浜市杉田村に誕生。小田原北条氏の家臣となったが、北条氏の滅亡後、徳川家康の仕官を断り、菅生にある無住の尼寺に入り戦死者を供養したと言う。子孫に「解体新書」を著した杉田玄白がいる。

浄土真宗法林山長安寺。本尊は阿弥陀如来立像。寺を中興開基した杉田長安は、横浜市杉田村に誕生。小田原北条氏の家臣となったが、北条氏の滅亡後、徳川家康の仕官を断り、菅生にある無住の尼寺に入り戦死者を供養したと言う。子孫に「解体新書」を著した杉田玄白がいる。



③ 平瀬川

本流は潮見台の湧水を水源とし、支川は麻生区と多摩区を源流とする。初山1丁目で本流と支川が合流し、高津区で多摩川に注入。河川改修前は洪水が多発した。反面、菅生から下流域の水田を潤した。

④ 十王堂(閻魔堂)

元禄年間(1688～1704)の創建といわれている。十王は、道教や仏教で地獄において亡者の審判を行う裁判官で、閻魔大王はその中のひとり。天保15年(1844)、当時の世話人6人を中心に地域の寄進で入仏供養が行われた。菅生神社例祭の宵宮の日には、十王堂境内の土俵で、初山の獅子舞が行われる。



⑤ 馬頭観音(道標)



「北登戸」「東二子」「西王禅寺」と記されている。この馬頭観音は、以前、王禅寺道と鎌倉街道との分岐点(地図※⑤)に立てられていた。

⑥ 鎌倉街道中道支線(鷲沼～枳形山線)

大山街道の鷲沼から土橋・初山を経て島坂に下り、熊野社跡付近から生田緑地を通り枳形山に達していた。途中、土橋の茶筌松跡・鞍掛松跡と土橋跡には、いずれも頼朝伝説が残されている。土橋は、頼朝が奥州遠征の際、架かせたと言う話が伝えられている。また「新編武蔵風土記稿」によれば、滝沢の本遠寺は鎌倉街道の伝承が残されている。鎌倉街道は、矢上川と平瀬川の低地以外は尾根道を辿っている。

参考文献

『新編武蔵風土記稿』 雄山閣
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所蔵
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

⑦ 本遠寺



日蓮宗初香山本遠寺。「新編武蔵風土記稿」によれば、建治元年(1275)鎌倉街道を通過した日蓮の弟子の日朗が、一宿の礼に念持仏を納めたのが起源と記されている。永禄2年

(1559)に本遠寺と改称し、元禄8年(1695)、平との境にある尾根道から現在地に移築された。寺には、大正11年(1922)、住職が村人を教育するために設立した川崎市最古となる図書館「向丘図書館」があった。境内には「魚介類供養塔」があり、墓地には越路吹雪夫妻の墓がある。

⑧ 飛森(とんもり)谷戸



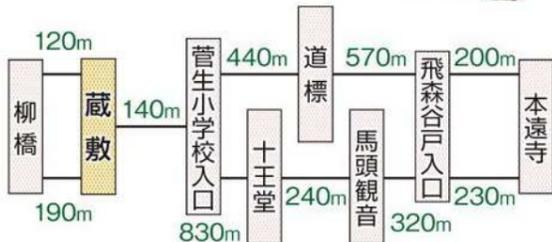
平瀬川から生田緑地ゴルフ場内の滝沢池付近まで延びる約1000mの谷戸。双子谷・狼谷などの枝谷戸を持つ。谷戸の西端を流れる清流は、「飛森谷戸の自然を守る会」の手で守られている。

⑨ 道標

昭和3年(1928)、向丘村青年団初山支部が、御大典記念に立てたもの。石造の角柱に「平 神木溝ノ口 川崎方面」「蔵敷 稗原山内村 柿生村方面」「長沢 生田村 柿生村」と記されている。道標の前を通る道路は、登戸方面から荏田に連絡し、大山街道の迂回路として利用されていた。



全長 約3.5km



インフォメーション: [蔵敷]へのアクセス

(バス)「宮前平駅」「溝の口駅」「向ヶ丘遊園駅」「生田駅」「新百合ヶ丘駅」「あざみ野駅」などから乗車し「蔵敷バス停」で下車してください。

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

歴史ガイドまち歩き③ 菅生



地図の見かた

- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- 古道
- 旧村界
- 旧大字界
- 有馬村 旧村名
- 大谷 旧大字名
- 太田前 旧字名
- 見どころ
- 矢上川 河川名
- ♀ バス停
- ♿ トイレ

初山正八幡社と獅子舞

初山正八幡社は元久2年(1205)に初山に鎮座したが、明治43年(1910)に菅生神社に合祀された。八幡社に伝わる獅子舞は、現在菅生神社の例祭で舞われ、2頭の雄獅子と1頭の雌獅子、天狗面を付けたおどけ役の4人で舞う『一人立三頭形式の獅子舞』と言い、3頭の獅子が各々胸に付けた鞆鼓(かっこ)を地面に触れるほどに低い姿勢で舞う振りが、地の悪魔払いを示し獅子舞の古様を伝えるという。平成13年に県指定無形民俗文化財に指定された。



初山獅子舞保存会

菅生神社

天福元年(1233)、平村白幡八幡大神の分霊を勧請して創建された。主祭神は神功皇后。下菅生村字蔵敷の鎮守社だったという。かつては若宮八幡大神と称していたが、明治43年(1910)に字初山の正八幡社、字長沢の神明社、字犬蔵の御嶽社、権現社、愛宕社、それに字神原の稲荷社を合祀して菅生神社と改められた。本殿には「神功皇后と竹内宿禰」の家型大絵馬があり、川崎市地域文化財に指定されている。

谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。